



三つのエネルギーが

一つになる瞬間

木曾川を行き交った

過去の栄光が去来する

八百津祭り

熱い思いが燃えたぎる。

YAOTSU MATSURI

「八百津祭り」(だんじり祭り)は、毎年四月の第二日曜日とその前日の土曜日の二日間、八百津の産土神(うぶすながみ)である大船神社を中心として行われます。祭日には船を形どっただんじり(長さ九m、巾三m、高さ六m、重量四七t)三両がひき出され、町内を練り回ります。本楽ほんがく(日)には本郷組、黒瀬組、芦渡組のだんじりが町の中心地、役場前に勢揃いし、須賀組の獅子舞を先頭に、大船神社に向かいます。美しく飾られた勇壮なだんじりは、どっしりと重く大きなかけ声とともにひっぱられ、男たちの巧みなテコ捌きで町並みを練り歩く姿は熱気にあふれ、別名「けんか祭り」とも呼ばれてい



ます。だんじりが八百津大橋(土曜日)、役場前(日曜日)で三両連なると一隻の大きな船となります。陸の大きな船の姿は、木曾川の舟運によって栄えた郷土の象徴として、大きな感動と、しみじみとした郷愁をよびおこします。このだんじりの始まりは元禄年間(一六八八〜一七〇四)といわれ、以後、修繕や新調を重ねて、現在に引き継がれています。中部地方でも他に類を見ない規模の大きなだんじりで、釘を使わず藤づるで豪快に組み立てられただんじりを見るのも圧巻です。



八百津祭り



久田見祭り



長く厳しい冬が生んだ
匠の技と美しい祭り
伝統と技のすべて
ここに集結

きらびやかに春を祝う。

KUTAMI MATSURI

久田見祭りは毎年四月の第三日曜日とその前日の土曜日の二日間、久田見の氏神である**神明・白鬃**両神社を中心として行われます。六面の絢爛豪華な山車が引き出され、それだけでも壮麗な眺めです。山車の上に設けられた舞台の上では、独創的な操り人形劇がくり広げられ、その愛らしく精緻な動きに、思わず見物の中から嘆息がもれ、拍手喝采がおくられます。その人形劇の動きの秘密は「糸切りからくり」という独特な技法と操作にあり、歴史的、芸術的な価値も評価されています。人形劇は、各祭典方で極秘に製作されたものが祭り当日、初めて御披露目となります。その

時世の話題のヒーロー、ヒロインなどの人形も登場し、そのアイデアには感心してしまいます。華麗な山車と、伝統の秘芸を守り続ける「糸切りからくり」その静と動、古い歴史と新しい文化のコントラストが大きな魅力となっており、祭りは盛り上がります。

この久田見祭りの始まりは天正一八年（一五九〇）稲葉右近方通がこの地方を領有した時、久田見の中心地は山中であるにもかかわらず大集落であったため、都会にならって現在の祭りを始めさせたと伝えられています。

また、「祭り神事規約」に従って行われるため祭礼従事者は禁酒で、祭りの執行は厳粛に古式ゆかしく行われます。そのありさまは、王朝時代の一大絵巻を見ていると言われるほどです。

糸切りからくりの技法は国の無形民俗文化財として選択され、岐阜県の重要無形文化財にも指定されています。

